



宮崎大学



大学院農学研究科

自然環境と生物生産の調和に関する環境教育



京都工芸繊維大学



大学院工芸科学研究科

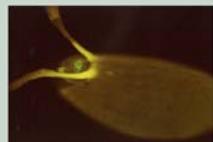
進化生物学／バイオテクノロジー／ゲノム科学

NBRP



大学院博士前期課程

遺伝資源専門技術者養成モデルカリキュラムの開発



講義・実習・演習

技術者

研究者

企業

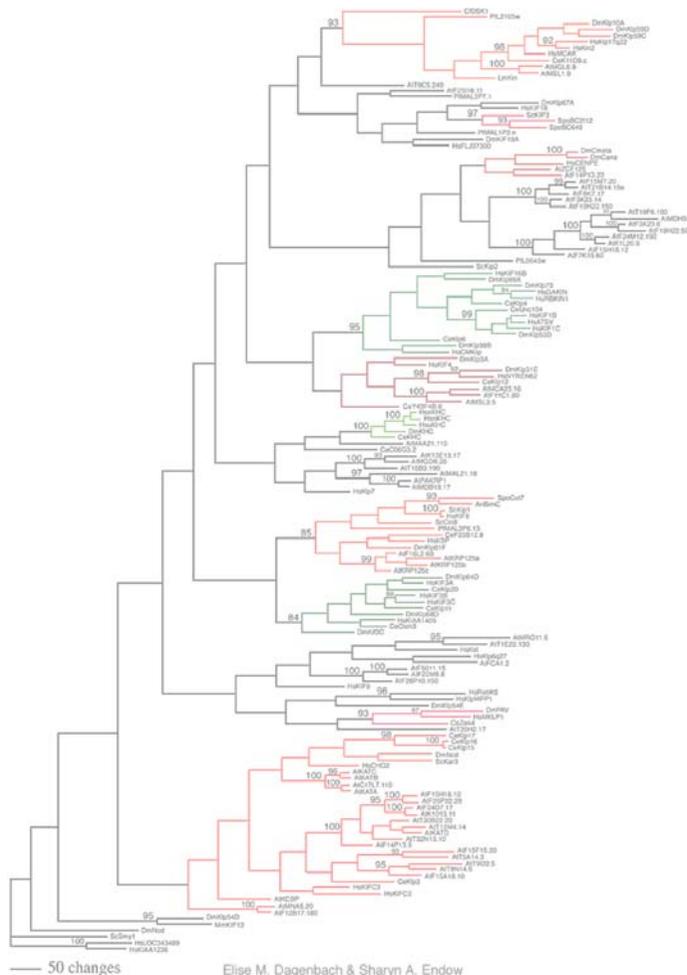
医薬品
農業
食品
環境保全 等

研究機関

大学法人
各種バイオメディカル研究所
動・植物防疫官
試験場研究員 等

地方公共団体

学校教員
環境カウンセラー
博物館 等



問合せ先

京都工芸繊維大学学務課学務第一係

電話：(075)724-7134 FAX:(075)724-7120

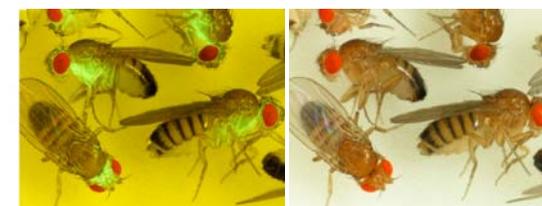
E-mail: sa07134@jim.kit.ac.jp

遺伝資源キュレーター 育成プログラム

京都工芸繊維大学
大学院工芸科学研究科

<http://www.kit.ac.jp/>

平成18年度



ショウジョウバエ遺伝資源センター
<http://www.DGRC.kit.ac.jp/>

連携協力：宮崎大学大学院農学研究科

社会的背景

生物多様性国家戦略に関する閣議決定

「生物多様性の保全及び持続可能な利用のために、その専門家の人材育成が必要」

(本文抜粋)

第2部 生物多様性の保全及び持続可能な利用の理念と目標

第3章 基盤的施策

第2節 教育・学習、普及啓発及び人材育成

3 人材の育成

生物多様性の保全に向けての基礎調査及び計画や政策の立案を推進するためには、環境を統合的に検討できる専門的な技術者、研究者や地域NGOの関与が必要です。また、環境アセスメントの実施に際しても、自然環境を的確に把握できる技術者や研究者による調査が不可欠です。しかし、分類学的素養や生態学的知見を十分に持った専門家は必ずしも多くはなく、生物種によっては、**専門家が国内にわずしかいない**というケースも見られます。このように、**地域NGOを含めた生物多様性に関する専門家は、質、量とも不足しており、その人材育成が重要です。**・・・(以下省略)

カルタヘナ議定書

「国民の安全のために生物遺伝資源の輸出入の監視体制も早急に強化する必要がある」

(本文抜粋)

第1条 目的

環境及び開発に関するリオ宣言の原則15に含まれる予防的アプローチに従い、本議定書の目的は人の健康に対するリスクをも考慮し、特に国境を越える移動に焦点を当て、**生物の多様性の保全及び持続可能な利用に悪影響を及ぼす可能性のあるモダン・バイオテクノロジーによって改変された生物(LMOs)の安全な輸送、取扱及び利用の分野における適切な水準の保護を確保するために貢献することにある。**・・・(以下省略)

生物多様性に精通した専門家
「遺伝資源専門技術者」
の社会的要請に応える

遺伝資源キュレーターについて

生物遺伝資源の研究や応用に必要とされる専門的技術を修得し、社会に対し安全と安心を提供する上で必要な生物多様性に関わる法規等の実務を理解する専門性の高い職業技術者「遺伝資源キュレーター」の養成を目的として、遺伝資源キュレーター育成プログラムを、宮崎大学と連携して実施します。

下記に掲げる本プログラムに関する科目の単位を修得し、博士前期課程を修了すれば、遺伝資源キュレーターとして認定証を交付します。(国家資格ではありません。)

なお、本プログラムは、平成18年度大学院工学科学研究科博士前期課程入学者からを対象とします。

遺伝資源キュレーター育成プログラム

プログラムの履修について

1. 遺伝資源キュレーターの認定には、学部科目のうちから最低修得単位を修得し、かつ、大学院授業科目のうちから、必修12単位、選択必修科目2単位以上の計14単位以上の単位を修得することが必要です。
2. 大学院在学中に学部科目を履修することができます。
3. 大学院の科目のうち、「応用生物学専攻開講科目」については、修了要件に含めることができます。ただし、応用生物学専攻以外の専攻の者については、他専攻の開講の授業科目となるため、修了要件に含めることができるのは、他専攻の授業科目すべてを含め6単位を限度とします。
4. 設備等の都合により、受講者数を制限することがあります。
5. 「植物遺伝資源学実習及び演習」は宮崎大学で実施します。受講するにあたり、交通費等について、一部自己負担がある場合があります。
6. 他大学出身者で、本プログラムの履修を希望する者は、学務課でご相談ください。

キュレーターとは、博物館、美術館、研究機関等における重要な保存資料や研究資源の管理責任者のことで、館長、責任ある学芸員など技能的専門員を意味します。



| 大学院授業科目 | 単位数 | 履修区分 |
|---------------|-----|------|
| 生物遺伝資源学特論 | 2 | ● |
| 遺伝資源と社会 -法規- | 2 | ● |
| ゲノム構造機能学特論 | 2 | ● |
| 昆虫生理学特論 | 2 | ☆ |
| 昆虫工学特論 | 2 | ☆ |
| 染色体工学特論 | 2 | ☆ |
| 動物遺伝資源学実習及び演習 | 3 | ● |
| 植物遺伝資源学実習及び演習 | 3 | ● |

履修区分欄に●印を付したものは必修科目を、☆印を付したものは選択必修科目を示します。

| 学部科目の内容 | 最低修得単位数 | 本学での対応科目 (平成14年度入学者) |
|---------------------|---------|--|
| 遺伝学に関する科目 | 4 | 遺伝学Ⅰ、遺伝学Ⅱ、分子生物学Ⅰ、分子生物学Ⅱ、遺伝子工学 |
| 動物生理学に関する科目 | 2 | 動物生理学、昆虫生理学 |
| 植物生理学に関する科目 | 2 | 植物生理学、植物機能開発学、植物細胞工学 |
| 資源生物に関する講義科目 | 2 | 資源生物と環境、有用昆虫学、生物生産科学、蚕糸科学、無菌生物生産学 |
| 資源生物、生物生産に関する実験実習科目 | 4 | 農場実習(Ⅰ、Ⅱ)、生物機能学実験(Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ)、分子生物学実験(Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ)、蚕糸生産学実験実習、応用生物学実験(Ⅰ、Ⅱ) |